

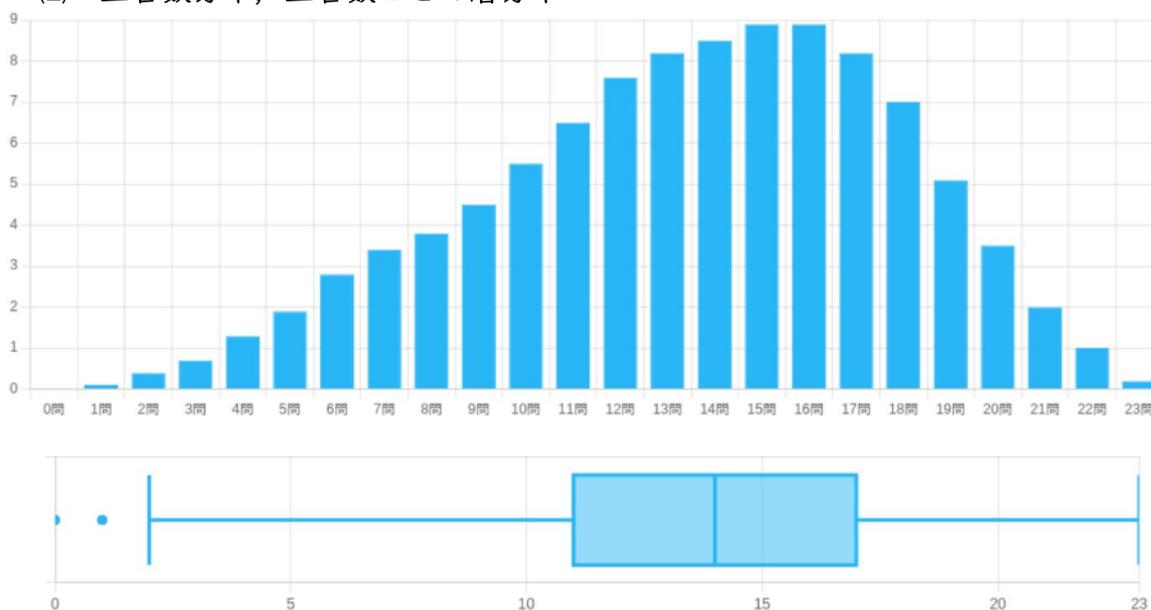
## 4 理科

### 小学校第5学年【理科】

(1) 平均正答数, 平均正答率

学年別 平均正答率	学年	小5	【参考】中1	【参考】中2
	知識・技能	6.8 / 12問 (57.0%)	51.7%	46.3%
	思考・判断・表現	6.7 / 11問 (60.4%)	45.4%	53.0%
	全体	13.5 / 23問 (58.7%) スコア 487	12.0 / 24問 (50.1%) スコア 500	11.6 / 24問 (48.2%) スコア 507

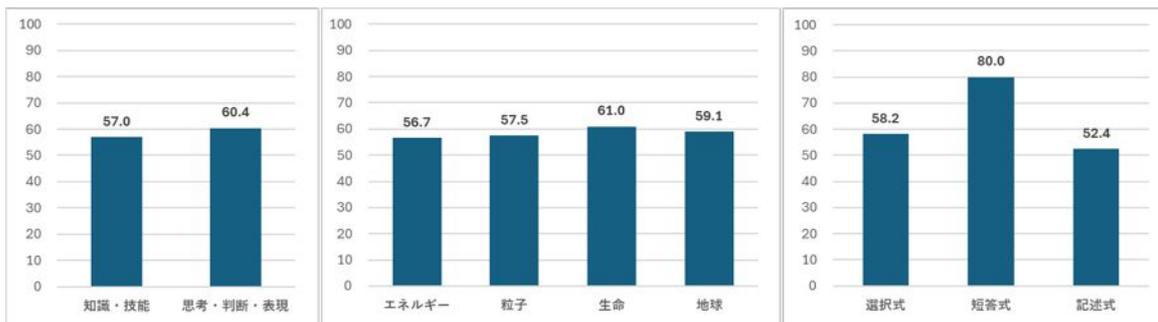
(2) 正答数分布, 正答数ごとの層分布



	D層	C層	B層	A層		県	自校
県分布	0~9問 (24.4%)	10~13問 (22.3%)	14~16問 (26.3%)	17~23問 (27.0%)	中央値	14.0	
自校分布	0~ 問 (. %)	~ 問 (. %)	~ 問 (. %)	~23問 (. %)	標準 偏差	4.3	

(3) 平均正答率（観点別、領域別、問題形式別）

小学校 第5学年	区分	問題数	平均正答率(%)	
			R7	自校
	全体	23	58.7	
観点	知識・技能	12	57.0	
	思考・判断・表現	11	60.4	
領域	エネルギー	5	56.7	
	粒子	6	57.5	
	生命	6	61.0	
	地球	6	59.1	
問題形式	選択式	20	58.2	
	短答式	1	80.0	
	記述式	2	52.4	



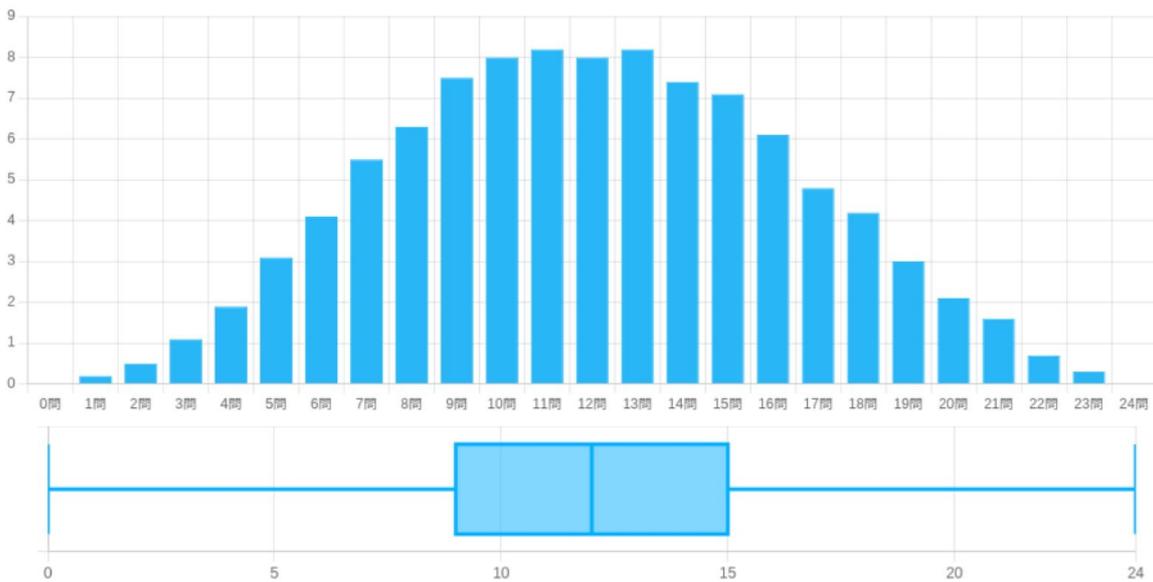
- 小学校第5学年理科の全体正答率は58.7%（13.5／23問）であり、学習内容の理解は概ね身に付いている状況であると言えます。観点別に見ると、「知識・技能」は57.0%、「思考・判断・表現」は60.4%となっています。
- 標準偏差は4.3とばらつきが大きく、各学力層の分布状況を見ると、D層（学力下位層）は0～9問と幅広い範囲に分布しており、下位層の中でも得点差が見られます。一方で、中央値は14問（全23問）であり、平均値（13.5問）を上回っていることから、正答数の高い児童が比較的多く、下位層の底上げが課題であると言えます。
- 4領域についてはいずれも同程度の正答率であり、特定分野に大きな偏りは見られませんでした。中でも「生命」は61.0%と比較的高く、生活経験と結び付けて考えやすい内容については、理解が進んでいると考えられます。
- 「短答式」の正答率は80.0%と高く、必要な語句や結果を的確に答える力は身に付いています。一方で、「記述式」は52.4%にとどまっており、観察、実験の結果を基に自分の考えを表現することに課題が見られます。

## 中学校第1学年【理科】

### (1) 平均正答数, 平均正答率

学年別 平均正答率	学年	【参考】小5	中1	【参考】中2
	知識・技能	57.0 %	9.3 / 18 問 ( 51.7 % )	46.3 %
	思考・判断・表現	60.4 %	2.7 / 6 問 ( 45.4 % )	53.0 %
	全 体	13.5 / 23 問 ( 58.7 % ) スコア 487	12.0 / 24 問 ( 50.1 % ) スコア 500	11.6 / 24 問 ( 48.2 % ) スコア 507

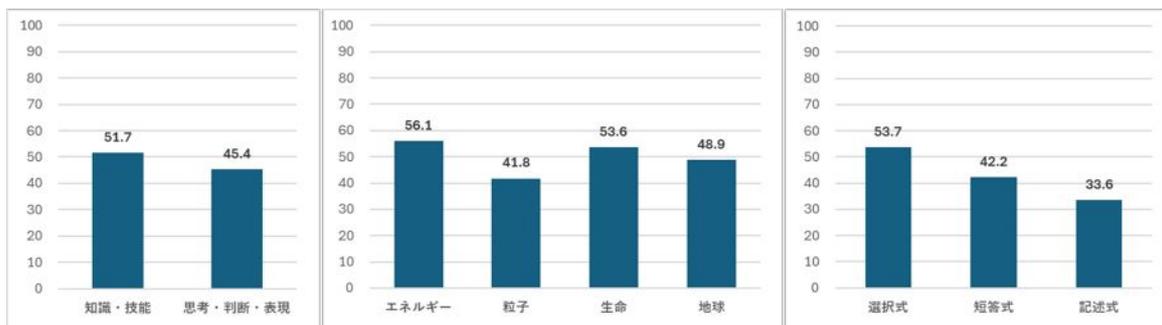
### (2) 正答数分布, 正答数ごとの層分布



	D層	C層	B層	A層		県	自校
県分布	0~8問 (22.7%)	9~11問 (23.7%)	12~14問 (23.6%)	15~24問 (29.9%)	中央値	12.0	
自校分布	0~ 問 ( . %)	~ 問 ( . %)	~ 問 ( . %)	~24問 ( . %)	標準 偏差	4.4	

(3) 平均正答率（観点別，領域別，問題形式別）

中学校 第1学年	区分	問題数	平均正答率(%)	
			R7	自校
	全体	24	50.1	
観点	知識・技能	18	51.7	
	思考・判断・表現	6	45.4	
領域	エネルギー	6	56.1	
	粒子	6	41.8	
	生命	6	53.6	
	地球	6	48.9	
問題形式	選択式	18	53.7	
	短答式	4	42.2	
	記述式	2	33.6	



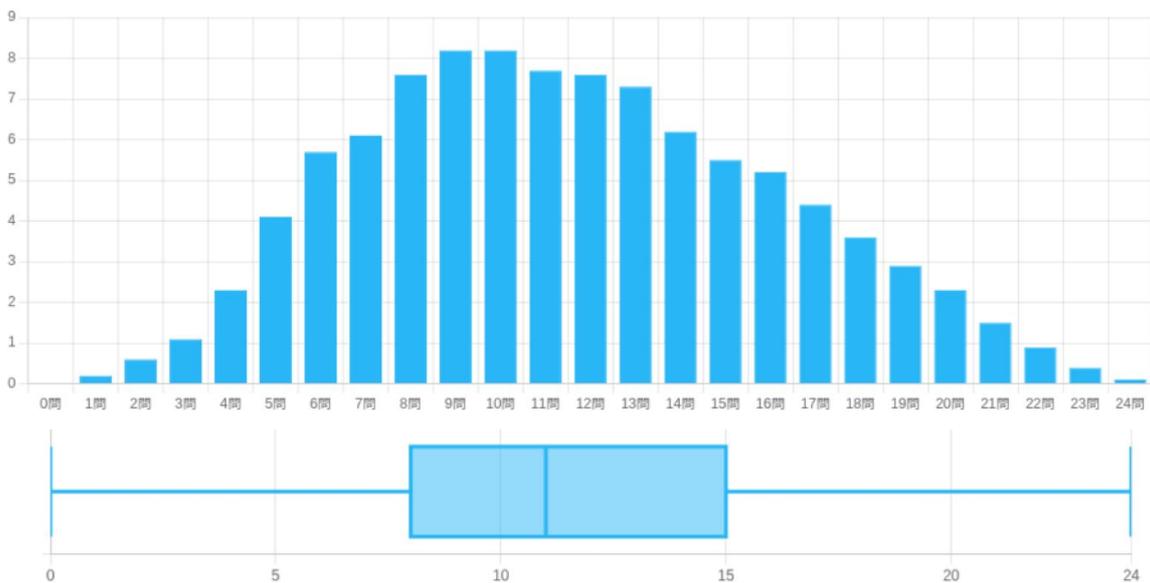
- 中学校第1学年理科の全体正答率は50.1%（12.0/24問）であり，学習内容の定着は十分とは言えない状況です。観点別に見ると，「知識・技能」は51.7%，「思考・判断・表現」は45.4%となっており，得られた知識を基に，科学的な事象を表現する力に課題が見られます。
- 各学力層の分布状況を見ると，A層（学力上位層）は15～24問，D層（学力下位層）は0～8問と，それぞれ幅広い範囲に分布しており，それぞれの層の中でも得点差が見られます。標準偏差は4.4とばらつきが大きく，小学校段階から理解の差が広がっている可能性が示唆されます。
- 領域別に見ると，「エネルギー」「生命」は比較的高い正答率を示しており，事象を具体的にイメージしやすい内容では理解が進んでいると考えられます。一方で，「粒子」は41.8%と低く，化学変化を質的・実体的な視点で捉えることに難しさを感じていると思われます。
- 「選択式」は一定の正答率が見られるものの，「短答式」「記述式」になると正答率が大きく低下しており，結果や理由を自分の言葉で説明する力が十分に育成されていないと考えられます。

## 中学校第2学年【理科】

### (1) 平均正答数, 平均正答率

学年別 平均正答率	学年	【参考】小5	【参考】中1	中2
	知識・技能	57.0 %	51.7 %	7.9 / 17問 (46.3 %)
	思考・判断・表現	60.4 %	45.4 %	3.7 / 7問 (53.0 %)
	全 体	13.5 / 23問 (58.7 %) スコア 487	12.0 / 24問 (50.1 %) スコア 500	11.6 / 24問 (48.2 %) スコア 507

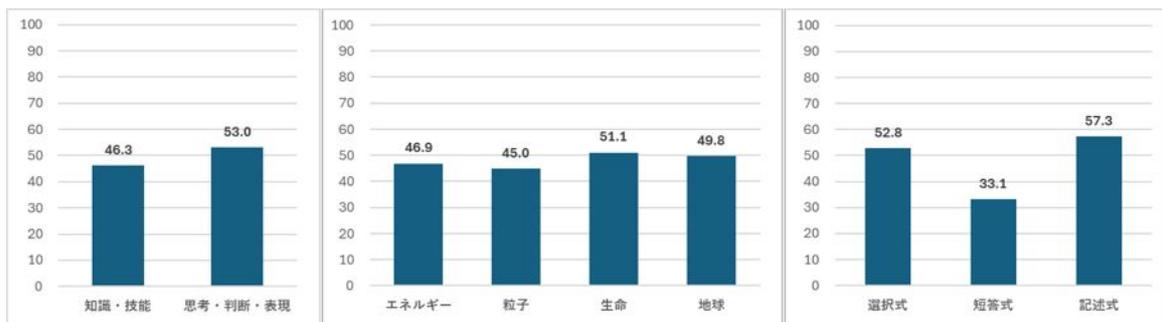
### (2) 正答数分布, 正答数ごとの層分布



	D層	C層	B層	A層	県	自校
県分布	0~7問 (20.1%)	8~10問 (24.0%)	11~14問 (28.8%)	15~24問 (26.8%)	中央値 11.0	
自校分布	0~ 問 ( . %)	~ 問 ( . %)	~ 問 ( . %)	~24問 ( . %)	標準 偏差 4.6	

(3) 平均正答率（観点別，領域別，問題形式別）

中学校 第2学年	区分	問題数	平均正答率(%)	
			R7	自校
	全体	24	48.2	
観点	知識・技能	17	46.3	
	思考・判断・表現	7	53.0	
領域	エネルギー	6	46.9	
	粒子	6	45.0	
	生命	6	51.1	
	地球	6	49.8	
問題形式	選択式	16	52.8	
	短答式	6	33.1	
	記述式	2	57.3	



- 中学校第2学年理科の全体正答率は48.2%（11.6／24問）であり，学習内容の定着は十分とは言えない状況です。観点別に見ると，「知識・技能」は46.3%，「思考・判断・表現」は53.0%となっており，「知識・技能」の定着に比べて，考えを基に判断・表現しようとする力は相対的に高い結果となっています。
- 各学力層の分布状況を見ると，平均値（11.6問）が中央値（11問／全24問）を上回っていることから，A層（学力上位層）の生徒が平均値を押し上げていると考えられます。標準偏差は4.6と，中学校第1学年よりもばらつきが大きく，さらに理解の差が広がっている可能性があり，下位層・中位層生徒の底上げや伸長が課題であると言えます。
- 4領域についてはいずれも5割前後で推移しており，特定分野に大きな偏りは見られません。一方で，「粒子」「エネルギー」など，とりわけ1分野の内容において，概念理解が不十分なまま判断している生徒がいると考えられます。
- 「記述式」の正答率は57.3%と比較的高く，資料や実験結果を基に理由を説明する力は一定程度育成されていると考えられます。一方で，「短答式」は33.1%と低く，科学的な用語や数値などを正確に表現する力に課題が見られます。